中谷 愛の「世界の手仕事」
第十四回

～インドの手仕事～ グジャラートのミラー刺繍

文 中谷 愛　写真 西遊旅行

グジャラートの人々が纏うキラキラと星のように輝く民族衣装や装飾品。よく見ると、小さな鏡が色とりどりの糸で刺繍されています。なぜ刺繍に鏡を使うようになったのでしょうか？今回は、グジャラートのミラー刺繍についてご紹介します。

インドのミラー刺繍の歴史

インドにガラスを作る技術が発達したのは17世紀のムガール時代。その頃から、ミラー刺繍が始まったといわれています。鏡が作られるようになる前には、雲母が刺繍されていたそうです。刺繍用の鏡は、ガラスの片側に錫が塗られたもので、大まかに割られた状態で市場に売られています。刺繍職人は、鏡のかけらを市場で購入し、自分好みの形に小さく削って刺繍に使います。

なぜ布に鏡を刺繍するの？

どうして鏡を刺繍するのでしょうか。それは、「邪視」という考え方によるものだといわれています。邪視とは何か良いもの・美しいものに対して、羨ましい・妬ましいと思いながら投げかける視線のことで、視線の受け手に悪い影響を及ぼすと考えられています。その邪視を避けるためのツール「邪視よけ」のひとつとして、鏡が使われるのです。例えば生まれたばかりの赤ちゃんや、新居、新車、新婚カップルなどは邪視を受けやすいため、命名の儀礼や結婚式などにはミラー刺繍の衣装が使われることが多くあります。余談ですが、インドの家の軒先に吊るされた唐辛子とライムの飾り「ニンブーミルチ」や、車の後ろに描かれた悪魔のような絵「ナザルバットゥー」、トルコのお土産で有名な青いガラス飾り「ナザールボンジュ」も邪視よけの例です。ぜひ旅の車窓から探してみてください。

右下／刺繍を施すメグワル族の女性　左上／ラクダに家財道具を乗せて移牧を行うラバリ族　上中央／鏡を五芒星の形に縫いとめる　右上／丸く削ったミラー　右／ムトワ族の非常に細かいミラー刺繍

「ニンブーミルチ」のキーホルダー

ミラー刺繍の縫い方

ミラー刺繍の中で一番簡単なのは丸型です。まず小さな丸い鏡を布にしっかりと抑え、刺繍糸で三角形に縫いとめます。しっかりとまったら、さらに互い違いに針を進め、五芒星の形に鏡を縫い止めた後、周りをかがっていきます。言うのは簡単ですが、実際にやってみると丸の位置がずれたり、周りをかがる縫い幅がバラバラになったりと、なかなか上手くできません。グジャラートのカッチ地方を旅していると、女性たちがワイワイおしゃべりしながらミラー刺繍をしているところに出会うことがありますが、あの域に達するまでには相当の訓練が必要なのだろうなと思います。

軒先で刺繍をする女性たち

丸、三角、四角…ラバリ族のミラー刺繍

多くのミラー刺繍が丸型であるのに対して、ラバリ族のミラー刺繍には三角や四角などさまざまな形の鏡が見られます。丸以外の形は、削るのも縫い付けるのも、丸に比べて高度な技術が必要になります。ラクダに家財道具一式を乗せて家畜と共に移牧を行うラバリ族。人間の衣装だけでなく、ラクダの背飾りや袋などにもミラー刺繍が施されていることがあります。

細かすぎる！ムトワ族の超絶技巧

カッチ地方のバンニエリアに暮らすムトワ族は、非常に細かいミラー刺繍をすることで有名です。5㎜程度の丸い鏡がびっしりと刺繍され、鏡と鏡の隙間もチェーンステッチやヘリンボーンステッチで埋められています。ムトワ族はイスラーム教徒のコミュニティで、女性が家から外に出ることが少なく、屋内の余暇を使って細かい刺繍をしたのが始まりだといわれています。家の壁にも鏡が埋め込まれ、可愛らしい装飾にうっとりしてしまいます。

日本でもチャレンジ！ミラー刺繍

実は、近年では日本でもミラー刺繍を習えるようになってきました。京都を拠点に作家活動を行う宮内愛姫（あいこ）さんは、不定期でミラー刺繍のワークショップを開催されています。また、ミラー刺繍の技法をわかりやすく載せた著書『かわいいミラー刺繍』も出版されています。私もこの本を手に、ミラー刺繍に四苦八苦しています。刺繍用の鏡は、自分で削らなくてもインターネット通販で手に入れることができます。興味を持たれた方は、チャレンジされてみてはいかがでしょうか。そしてぜひ、実際にグジャラートを旅してみてください！

『かわいいミラー刺繍』

COLUMN グジャラートのサリー

長さ5m～11mほどの1枚布をドレープ状にして身につけるサリー。地域によって様々な柄や着付け方法があるのをご存知でしょうか。グジャラートで結婚式などに遭遇したら、シルクの経緯絣「パトラ織」や絞り染め「バンダニ」の高級サリーに出会えるかもしれません。また、他地域では左肩から後ろに垂らす部分（パッルー）を、右肩から前に垂らす着方もグジャラートではよく見られます。

左／一般的なサリーの着方。パッルーは左肩から後ろに垂らす。右／グジャラートの人が纏うサリー。パッルーは前方にきている。

参考図書
『インド刺繍布のきらめき―バシン・コレクションに見る手仕事の世界』三尾 稔、中谷 純江、金谷 美和
『かわいいミラー刺繍：インドに伝わる伝統の技法をわかりやすくアレンジ』宮内 愛姫
『食べ歩くインド 南・西編』小林 真樹 ほか

グジャラートのターリー（定食）

COLUMN 甘くて酸っぱい！グジャラート料理

マハトマ・ガンディーの出身地であるグジャラート。特別な許可がないとお酒を買えない禁酒州で、菜食主義者が多く暮らしています。そんなグジャラート料理の特徴は、「甘い」と「酸っぱい」。グジャラートのターリーという定食は、大皿に何種類もの甘いおかずとデザートが並びます。また、レモンを使った酸味のある料理も名物です。さらに、牧畜が盛んなためヨーグルトやチーズなどの乳製品を使った料理やスイーツも見られます。